



－閑谷学校周辺エリア編－（回答・解説）

1. ①備前焼の子牛

田倉牛神社（たくらうしがみしゃ）は、社殿がない珍しい神社です。（鳥居はありません。）かつては、牛の病気平癒が祈願されていましたが、現在は家内安全、五穀豊穡（ごこくほうじょう）、商売繁盛も祈願されています。お参りする人は、備前焼製の子牛をお供えし、すでに供えてある牛一体を持ち帰り、大願成就のあかつきには、さらに一体を添えてお返しします。

2. ②まないち

備前市穂浪（ほなみ）で、日曜日に開催される朝市を「真魚市（まないち）」といいます。この真魚市では、瀬戸内海で獲れた旬の魚を購入するだけでなく、パンや野菜はもちろんのこと、名物の「焼きあなご」や「焼きうなぎ」をはじめ、その時に獲れた海産物をその場で味わうことができます。

3. ①中南米

BIZEN（備前）中南米美術館は、日生町（現備前市）で漁網の製造・販売を営んでいた故森下精一氏のコレクションの寄贈により、1975年（昭和50年）3月に開館しました。中南米諸国の考古学美術品や民族学的資料など約2,300点が収蔵展示されており、これだけの古代中南米美術コレクションを持つ施設は珍しく、貴重です。

4. ①釉薬（ゆうやく）

備前焼は、良質の陶土で一点一点成形し、乾燥させたのち、「釉薬（ゆうやく）（※）」も使わずそのまま焼いたもので、絵付けもしないというシンプルな焼き物です。土や窯（かま）への詰め方、窯の温度、焼成時の灰や炭などによって模様が変化するため、一つとして同じものはないと言われています。（※）素焼きの陶磁器の表面に塗る薬品

5. ②五味の市

「五味の市」は、日生町漁協の魚市場で、瀬戸内海産にこだわった季節の新鮮な魚介が格安でたくさん並びます。魚はその場でさばいてもらうことも可能です。ソフトクリームの上にカキフライが2つトッピングされ、仕上げに刺身しょうゆをかけて食べる名物「カキフライソフト」も魅力的です。

6. ③日生カキオコ

「日生カキオコ」は、地元産のカキをたっぷりに入れて豪快に焼き上げたお好み焼きです。昭和40年代（1965年～1974年）に始まったと言われるご当地グルメで、この地で古くから愛されているソウルフードです。

7. ②シードル

りんごから造ったスパークリングワインのことをシードルと言います。和気町では、

和気町特産品づくり研究会が2018年（平成30年）に「和氣 syuwasyuwa りんごのうた」を開発しました。このシードルの開発には、移住者や役場、商工会、地元企業が関わっており、地域全体の力が結集しています。

8. ③約100種類

藤公園は、全国から有名な藤を集めて作られ、その数約100種類と、種類の多さでは日本一を誇る美しい公園です。藤棚は総延長が500mあり、その下は通路となっていて藤を仰ぎながら散策することができます。花が満開となる時期（4月下旬～5月初旬）には、「藤まつり」を開催しており、和気町を代表する観光地です。

9. ③和

和気町では、毎年8月16日、京都の大文字の送り火と時を合わせて観音山に縦65m×横75mの「和」の火文字が点火される「和文字焼きまつり」が開催されます。「和」の火文字は、「和気町」の「和」を意味するとともに、「大文字」の火文字とあわせ「大和」をも意味するといわれています。

10. ②銀行

移転に伴い閉鎖した銀行の支店跡を商工会が取得し、和気町民や和気閑谷高校の生徒たちなどの手によって、地域活性化の拠点として新たに蘇（よみがえ）りました。ENTER WAKEの名前には、町外の人々との接点となる入口（ENTER）という意味と、これからの和気町での始まりの場所になって欲しいという願いが込められています。



－犬島周辺エリア編－（回答・解説）

1. ③大阪城

前島には、大坂城再建の際に、石垣の石を切り出した丁場の跡である「大坂城築城残石群」が今でも残っており、人気スポットとなっています。そのほかにも島の最高地点にある「前島展望台」からの眺望が人気です。

2. ①宝木

西大寺観音院の本堂 御福窓（ごふくまど）から投下される2本の宝木（しんぎ）をめぐる、まわしを締めた裸の男たちが激しい争奪戦を繰り広げます。この宝木を取った者は、福男と呼ばれ、福が得られるといわれています。

3. ①看板

「五福通り」には、今ではめずらしい看板建築の商家が建ち並び、今でも昭和の面影（おもかげ）を残す街並みが残っています。看板建築とは、関東大震災後に商店などに用いられた建築様式です。看板のような平坦（へいたん）な壁を使って、自由なデザインが試みられたため、看板建築と命名されました。「五福通り」の持つ、独特の雰囲気のある町並みは、多くの映画やドラマのロケ地としても使われています。

4. ①臨濟宗（りんざいしゅう）

曹源（そうげん）寺は、岡山藩主池田綱政が1698年（元禄11年）に、高祖父信輝（のぶてる）と父光政（みつまさ）の菩提（ぼだい）を弔い、自らの冥福（めいふく）をも祈るために建てた池田家の菩提寺で、臨濟宗妙心寺派（りんざいしゅうみょうしんじは）の禅寺です。また、池泉回遊式（ちせんかいゆうしき）の庭園は、江戸時代中期のすぐれた禅庭でもあります。

5. ②ハレノワ

誰もが「覚えやすく」「親しみやすい」愛称を募集し、「ハレ」という岡山県民にとって馴染み深い言葉と、つながりや連携、発展性などを感じられる「ワ（輪）」を取り入れ、ハレの「ワ（輪）」が広がるように、市民に身近な劇場になることを期待し、名付けられました。岡山芸術創造劇場「ハレノワ」は、「魅せる」「集う」「つくる」という活動を中心として展開されます。

6. ①招き猫美術館

日本で初めて「招き猫」を専門に扱ったミュージアムとして1994年（平成6年）に開館しました。招き猫美術館では、明治時代の招き猫からオリジナル招き猫まで約800体所蔵しています。ここでしか買えないオリジナルグッズの購入や、招き猫に絵付け体験もできます。

7. ②桃型ボート

「桃ボート」は2018年（平成30年）10月、岡山城脇を流れる旭川に登場した、桃の形をしたボートです。Café&Restaurant&Boating 碧水園（へきすいえん）で乗船することができます。

8. ③烏城

岡山城は、豊臣秀吉の指示により宇喜多秀家（うきたひでいえ）によって築かれました。1597年（慶長2年）に完成した天守閣の外壁が、黒塗りの下見板で覆われていることから「烏城（うじょう＝「う」はカラスの意味）」の別名で呼ばれています。

9. ①塵輪鬼（じんりんき）

牛窓町（現・瀬戸内市）に伝わる話では、神功皇后が三韓征伐の途中に、同地で塵輪鬼（じんりんき）という頭が八つの大牛姿の怪物に襲われて、弓で射殺した際、塵輪鬼は頭、胴、尾に分かれて、それぞれが牛窓の黄島、前島、青島となったと伝えられています。

10. ②百間川

百間川は令和元年度に、世界かんがい施設遺産に「倉安川・百間川かんがい排水施設群」として登録されています。かんがい施設とは、農地に人工的に水を供給するための施設のことです。百間川は、旭川の洪水防止など排水施設としての役割も有しています。



ー長島愛生園周辺エリア編ー（回答・解説）

1. ①カキ

岡山県産のカキは全国3位の収穫量で、虫明（むしあげ）は同県内で水揚げ量が1位です。カキは一般的に1年で収穫する「1年牡蠣」が多いのですが、虫明では3年間じっくり寝かした「3年牡蠣」を主に扱っています。1年もの比べて身が大きく、味がしっかりしているのが特徴です。

2. ③刀剣

備前長船刀剣博物館は、鎌倉時代から、日本刀の産地として栄えた瀬戸内市にある全国でも珍しい刀剣を展示している博物館で、日本刀の古式鍛錬（たんれん）、刀身への彫刻、研ぎなどの、日本刀の様々な製作工程を実際に見学することができます。月に1度、1200度の高熱で玉鋼（たまはがね）を打ち延ばす「古式鍛錬」の見学も可能で、外国人観光客も押し寄せるほど人気スポットになっています。

3. ①虫明焼

「虫明焼（むしあげやき）」は、県指定郷土伝統的工芸品で、京都の清水焼の流れをくむ焼き物です。薄肌できめの細かい肌ざわりとやわらかい曲線、緑かかった薄茶色などが、気品のあるやさしい風合いを作り出しています。現在知られている虫明焼の形態が確立されたのは、江戸時代になってからです。

4. ②だかし

「日本一のだかし売場」は、子ども好きな社長が、子どもを喜ばせることに全力で取り組むだかし屋です。子どもたちの「あれはないの?」といった声に応えるうちに品数が増え、売り場が広がり、店内に菓子とおもちゃを合わせて約5000種類が並びます。

5. ③ヴィーナス

瀬戸内市牛窓沖に浮かぶ黒島で、干潮時に現れる全長800mの神秘的な砂の道を「黒島ヴィーナスロード」といいます。3つの島が弓形につながった黒島ヴィーナスロードは、恋人たちのパワースポットとしても有名です。また、2人で触ると恋愛が成就すると言われる「ハートの石」を探してみるのも一つのお楽しみです。

6. ③エーゲ海

牛窓の海は、岡山県の中でも温暖な気候であることや、牛窓から見える瀬戸内海の海に島が多いという点から、「日本のエーゲ海」とも称されています。牛窓は、多くのロケ地にも選ばれ、たくさんの旅行者たちが訪れています。

7. ①系操り人形師

竹田喜之助（たけだきのすけ）は、結城孫太郎（後の竹田三之助一座）の公演に魅せ

られて人形劇にとりつかれ、1950年（昭和25年）3月に入座し、人形師の道を歩み始めました。人形のからくりや、使用材料に画期的な工夫を凝らし、これまでの人形に新しい生命を吹き込み、多くのファンを生みました。

8. ①黒田官兵衛

「備前福岡（びぜんふくおか）」（現岡山県瀬戸内市長船町福岡）は、攻城戦で相手の食糧（しょくりょう）補給手段を絶つ「兵糧（ひょうろう）攻め」や備中高松城の「水攻め」などで知られる、黒田孝高（くろだよしたか）、通称黒田官兵衛（くろだかんべえ）の曾祖父・黒田高政が住んだ土地です。黒田官兵衛、長政親子が筑前に移った際、「福岡」と地名を改めたのは、ここ備前福岡に由来していると言われています。

9. ①唐子踊

「唐子踊（からこおどり）」は、異国風の衣装を着た男児2人が、カンコ（小太鼓）、横笛、囃子（はやし）に合わせて対舞します。文献などから少なくとも江戸時代末には踊られていたことがわかりますが、その初源は不明です。

10. ②警察署

牛窓海遊文化館は、かつて警察署であった建物が活用されており、現在は県指定民族文化財の牛窓だんじりや、朝鮮通信使の文化交流資料が展示されています。